

## 販売店からのお知らせ

### 「ご購入読料の訪問集金について」

新型コロナウイルス感染予防の為、新聞代の訪問集金から、お客様のお手数料が一切かからない、「銀行引き落とし払い」または「クレジットカード払い」のご変更をお願いさせて頂いております。もちろん訪問集金は今後も継続させて頂きますが、変更可能な方はご協力お願いします。

お手続きは簡単です。お問合せ頂いたお客様に、専用用紙をお届けさせて頂きます。必要事項をご記入頂き、返信用封筒に切手を貼らずご返信ください。6月10日までにご返信頂くと、7月分の新聞代からご変更可能です。よろしくお願いいたします。

## 6月の古紙回収日のお知らせ

古紙回収の6月の日程は下記の通りです。

5月7日(土)に回収したお客様は **6月4日(土)**

5月14日(土)に回収したお客様は **6月11日(土)**

※変更になる場合もございますので、**前日朝刊**に入る「お知らせチラシ」をご確認ください。

## 世論のトレンド

日本国憲法が施行75年を迎えた。毎日新聞の世論調査によれば、岸田文雄首相の在任中に憲法を改正することについて、「賛成」が44%で、「反対」の31%を上回った。9条改正に関しては、自衛隊の存在を明記することへの「賛成」が58%で、「反対」の26%を大きく上回った。他のメディア調査もほぼ同様の傾向で、憲法改正に対する抵抗感は少なくなっているようだ。

ロシアのウクライナ侵攻に伴い、安全保障への意識が高まったことが背景にあると見られている。憲法は平和を尊ぶ優れた基本法だと思いが、「不磨の大典」ではないのだから改正の是非を議論するのは当然である。ただし、「米国に押しつけられた」など茫漠とした理由での発議は無意味だ。必然性と必要性を突き詰め、国民の大半が合理的と判断できることが最低限の条件だろう。

政権与党である自民党は憲法改正が党是だ。どんな理由であろうと、自民党を支持すれば憲法改正のおまげが付いて来ると考えなければいけない。被爆地の広島出身で、ハト派の岸田首相も憲法改正に前向き発言をしている。タカ派の安倍晋三首相当時(2020年4月)の世論調査では憲法改正に「反対」が46%で、「賛成」の36%を上回っていた。賛否が逆転したのはウクライナ情勢だけではなく、首相のキャラクターに負うところもあるのだろう。ハト派の改憲は国民の抵抗感が薄いのかも知れない。一度改正されれば習性になる。殊に安全保障分野は疑心暗鬼が支配する世界だから、自衛隊明記から核武装まで際限なく膨張する可能性がある。憲法に盛り込まれた安全保障思想は「盾の勇者」だと思おう。「矛」に変えられぬよう議論の推移を見定めたい。

【毎日新聞 因幡健悦】

## しょうなん人

英語・異文化理解コーチ

内藤真由美さん

グローバル化の時代とはいえ、英語が苦手な方は存外多いのではないかと。どうすれば自在に操れるのか知りたいと、私も思う。

茅ヶ崎で生まれ育った内藤さんは「私も挫折が多く、そんな方の苦手意識はよく分かります」と云う。大学卒業後、外資系航空会社のCAに。英語が好きで就いた憧れの職業だったが、同僚や乗客の話す英語が理解できず落ち込んだという。「仕事を辞めるか英語の猛特訓をするか、と会社に迫られました」。特訓のおかげで上達し、ニュース英語クラスの講師を13年間務めた。



現在はメイイングリッシュを主宰し、外国人社員向けビジネスマナーや英語でのプレゼンテーションを講義。これまで外務省、丸紅などで講義し、個人向けに英検コーチングもするが、「英語が苦手と思っ

ている方にこそ可能性があると思います」と云う言葉は、自らの経験に基づいており力強い。「英語や異文化を理解していると出会いの幅が広がる。私も良い出会いに恵まれて、いまがあります。世界と出会いを広げることがグローバルな生き方だろう。」

【毎日新聞社 澤 圭一郎】

メイイングリッシュのHPは

こちらのQRコードから。

